

安曇野の宝物を知って未来へ活かそう！ ワークショップ

実施報告

I	実施概要	1-1	Ⅲ	第2回 湧水を活かした生業が育む景観	1-13
I-1	開催概要	1-1	Ⅲ-1	謎解きウォーク	1-13
I-2	謎解きウォークについて	1-3	Ⅲ-2	ワークショップ結果	1-17
I-3	ワークショップについて	1-4	IV	第3回 安曇野の「東の玄関口」の山村景観	1-21
II	第1回 拾ヶ堰と緑豊かな農村景観	1-5	IV-1	謎解きウォーク	1-21
II-1	謎解きウォーク	1-5	IV-2	ワークショップ結果	1-24
II-2	ワークショップ結果	1-9	V	3回のワークショップのまとめ	1-29

I. 実施概要

I-1 開催概要

(1) 目的

○安曇野市文化財保存活用地域計画の立案に向け、より多くの市民の意見提案を反映させるため、安曇野の文化・歴史の一端を現地で理解しながら、これらを活かしたまちづくりの将来像や将来の取り組み提案をいただく機会を設ける。

(2) 開催日・場所

回数	開催日	ウォーキングエリア	集合場所	対象	参加者数
第1回	10/12(土)	拾ヶ堰と緑豊かな農村景観 (堀金・中堀地区周辺)	中堀公園 駐車場	高校生以上 (小4以上の 子ども連れ可)	10名
第2回	10/26(土)	湧水を活かした生業が育む景観 (穂高・等々力地区周辺)	本陣等々力家 前駐車場	高校生以上	12名
第3回	11/9(土)	安曇野の「東の玄関口」の山村景観 (明科・潮沢地区周辺)	明科公民館	高校生以上	18名

○各回13:00集合、16時30分解散

○前半：謎解きウォーク（約90分） 後半：ワークショップ（約90分）

(3) 参集方法

○広報あづみのおよび安曇野市ホームページ、市公式SNSにて案内（チラシは下ページ参照）。

○ながの電子サービスまたは電話で申し込みいただいた。

(4) 事務局体制

○安曇野市文化課、(株)KRC

○前半の謎解きウォークは、NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団にご協力いただいた。

安曇野の宝物を知って 未来へ活かそう！ワークショップ



安曇野の歴史や文化の特色の一端を「謎解きウォーク」を通じて知り、これらを未来のまちづくりに活かすアイデアを出し合うワークショップを市内3カ所で開催します。

回数	開催日	ウォーキングエリア	集合場所	定員
第1回	10/12(土)	拾ヶ堰と緑豊かな農村景観 (堀金・中堀地区周辺)	中堀公園 駐車場	先着 30名
第2回	10/26(土)	湧水を活かした生業が育む景観 (穂高・等々力地区周辺)	本陣等々力家 前駐車場	先着 30名
第3回	11/9(土)	安曇野の「東の玄関口」の山村景観 (明科・潮沢地区周辺)	明科公民館	先着 20名

【時間】13:00集合(16:30解散予定)

前半: 謎解きウォーク(約90分) 後半: ワークショップ(約90分)

【対象】高校生以上(第1回のみ小学校4年生以上のお子様連れ可)

参加無料

【持ち物】飲み物、履きなれた靴、帽子、雨具(適宜)、マスク(適宜)

・謎解きウォークは野外の散策を含みます。(第3回はバス移動が主です)

・少雨決行 荒天時は時間を短縮し、室内のワークショップを主としたプログラムを行います。

参加申し込み方法

申込期間をご確認の上、ながの電子申請サービス又は電話で次の①、②の事項をお伝えください。

① 代表者1名の住所、氏名、電話番号、生年月日

② 同行者の氏名、生年月日

1回の申し込み人数は、代表者1名+同行者4名までとさせていただきます。

電話: 0263-71-2464 (安曇野市教育委員会 文化課)



ながの電子申請サービス

申込期間	第1回	第2回	第3回
	9/24~10/1	10/15~10/22	10/28~11/5

主催: 安曇野市教育委員会 協力: NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団

ウォーキングエリアのご案内

各回のワークショップでは、前半にエリア周辺の歴史的・文化的な宝物にまつわる謎解きをしながらのウォーキングを行います。そして、後半には室内でグループごとにその保全や活用に向け、誰が何に取り組みればよいかについて、知恵を出し合うワークショップを行います。

【第1回】

(堀金・中堀地区周辺)

拾ヶ堰と緑豊かな農村景観



北アルプスと拾ヶ堰

堀金地域の中堀地区は、かつては、地表水が乏しく水田耕作も生活も困難な条件でした。江戸時代に水利施設の整備が進められ、一帯は不毛の土地から生産と生活の場になりました。

以後、300年以上の間、その恩恵を受けながら緑豊かな新田集落が受け継がれています。加えて、2016年には拾ヶ堰が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。



中堀地区を散策後、堀金公民館に移動してワークショップを実施予定。

【第2回】

(穂高・等々力地区周辺)

湧水を活かした生業が育む景観



わさび田

市の文化財がある本陣等々力家、東光寺、等々力城跡等、歴史的な資源のほか、わさび田、ニジマスの養魚場などの安曇野の湧水で育まれた生業や、北アルプスを背景にした水と緑豊かな風景に出会うことのできるエリアです。



地区一帯を散策後、等々力会館にてワークショップを実施予定。

【第3回】

(明科・潮沢地区周辺)

安曇野の「東の玄関口」の山村景観



名丸の地蔵堂

明科地域の北東部に位置する潮沢地区は、篠ノ井線廃線敷のある地区として知られていますが、人口減少が顕著な地域のひとつ。自動車交通が発達する以前には、長野と松本を結ぶ交通の要衝となる集落でした。人々の営みの物語やその痕跡が各所に見られます。



明科公民館に集合し、バスで潮沢地区一帯を移動。その後、明科公民館に戻ってワークショップを実施する予定。

I-2 謎解きウォークについて

(1) 次第

- ① 集合・受付
- ② はじめの会
あいさつ（文化課、NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団）
スタッフの紹介
謎解きの方法案内
- ③ 謎解きウォーク（班ごと）
（終了し次第、後半のワークショップ会場へ移動）



(2) 謎解きウォークの進め方

- ① 解説員の話聞きながら徒歩でポイントの場所へ移動
- ② ポイントに近付いたらワークシートを配布
- ③ ワークシートの謎の答えを各自で考え、黄色の枠内に記入
- ④ 説明を聞いて改めて考えた答えを、緑色の枠内に記入
- ⑤ ポイント付近で見つけた地域の宝物や、宝物に関して気がかりなことを青色の枠内に記入

(補足)

- ・ 第2回は謎解きウォーク開始前に本陣等々力家の内部を見学した。
- ・ 第3回は明科公民館から謎解きウォークの場所までバスで移動。

地形と水の謎を解け！

推理・予想

新たな気づき・発見

A



Q1左 なぜ捨ヶ堰は山に向かって流れるのか？



Q2中 2本の水路の高さの違いの理由は？



Q3右 集落と田んぼの高低差は
どのようにして生まれたか？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



I-3 ワークショップについて

(1) 次第

- ① 後半の流れ説明
- ② アンケート結果説明
- ③ ワークショップの説明
- ④ ワークショップ（班ごとに討議）
- ⑤ リレー報告
- ⑥ あいさつ

(2) ワークショップの進め方

- ① テーマに沿って、各自付せんに意見を書き出す
- ② 一人ずつ付せんの内容を読み上げて貼り付ける
- ③ 追加の意見があればさらに書き出し、貼り付ける
- ④ 付せんを整理し、類似の意見を近くに貼り付ける

テーマその1

前半の謎解きウォークの青枠内に記入したメモを参考に、よい話、心配・気がかりな話について意見をいただく。

本日の「安曇野」を振り返る	歩いて見つけた 安曇野の宝物	変わりゆく時代の流れ を意識してみます	50年後・100年後に「宝物」を残していくために
印象に残ったこと 初めて知ったこと 改めて気づいたこと よい話	50年後・100年後に 起こっていそうな変化		行政 みんなで協力 市民
			テーマその3 50年後・100年後に前のテーマで挙げたような「宝物」を残していくための方策を、行政・みんなで協力・市民がやるべきことそれぞれについて意見をいただく。
心配・気がかりな話			テーマその2 次に、安曇野全域を対象として宝物を挙げていただく。また50年後・100年後に起こっていそうな変化を合わせて考えていただく。

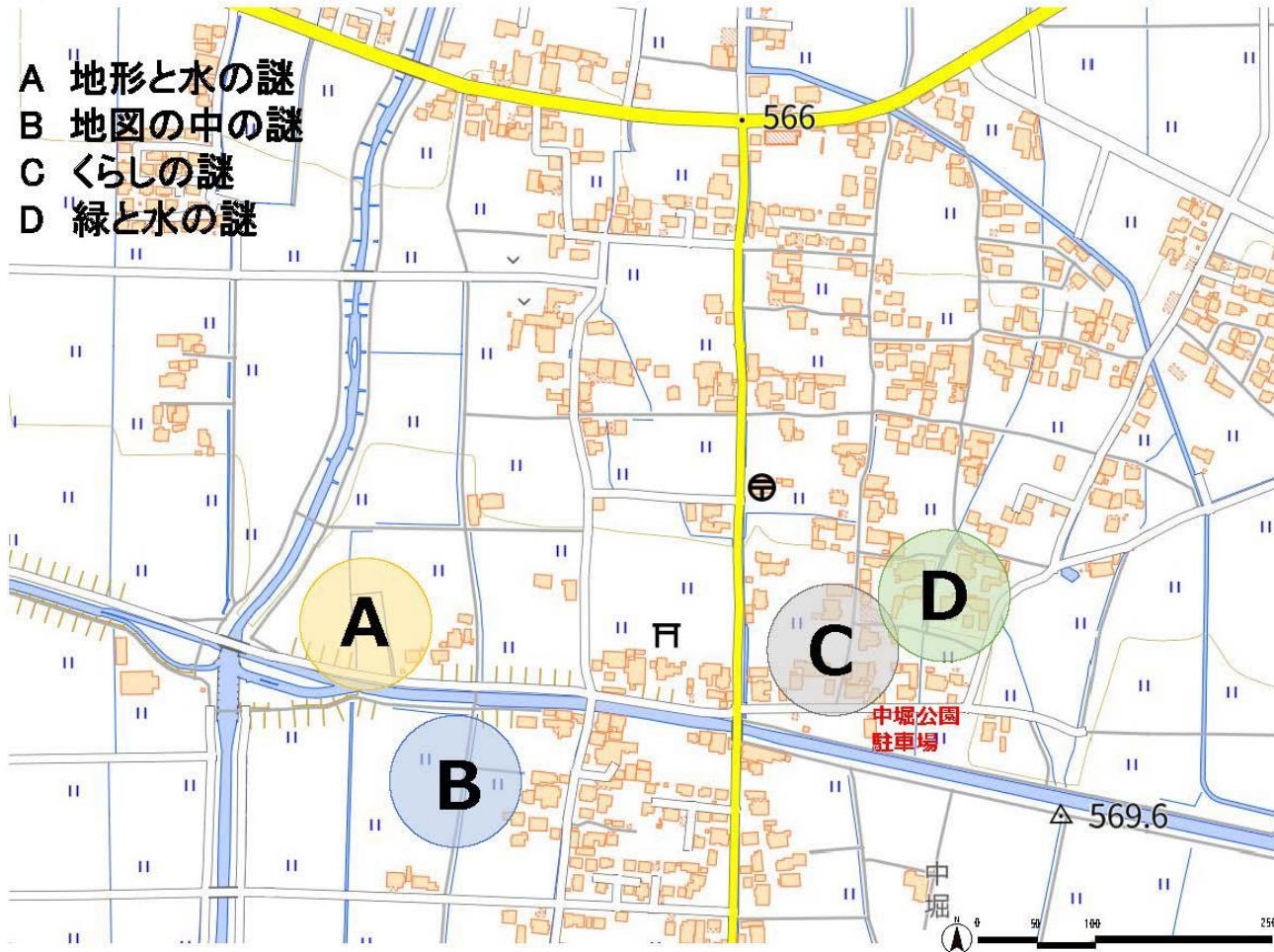
Ⅱ. 第1回 拾ヶ堰と緑豊かな農村景観（中堀地区）

Ⅱ-1 謎解きウォーク

（1）配布資料

【エリアマップ】

- A 地形と水の謎
- B 地図の中の謎
- C 暮らしの謎
- D 緑と水の謎



移動順路

A班：B→A→D

B班：A→B→C

地形と水の謎を解け！

推理・予想

新たな気づき・発見

A



Q1左 なぜ拾ヶ堰は山に向かって流れるのか？

Q2中 2本の水路の高さの違いの理由は？

Q3右 集落と田んぼの高低差は
どのようなに生まれたか？

見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと

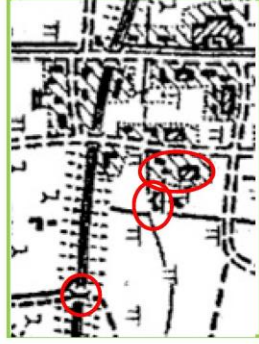


地図の中の謎を解け！

推理・予想

新たな気づき・発見

B



現在の地図では使われていない3つの記号。
それぞれ何か推理してみましょう。

Q1 ㄣ

Q2 ㄣ

Q3 ㄣ

見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



くらしの謎を解け！

推理・予想

新たな気づき・発見

C



Q1左 屋根の鉄板の下に材料は？



Q2中 この建物の役割と使い方は？



Q3右 屋根が二重なのはなぜ？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



緑と水の謎を解け！

推理・予想

新たな気づき・発見

D



Q1左 木々で囲んだ場所の方位と
植樹の目的は？



Q2中 水路の水の使い方は？



Q3右 これは何の痕跡？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



(参考) 当日の様子



Ⅱ-2 ワークショップ結果

1. 本日の「安曇野」を振り返る（印象に残ったこと、初めて知ったこと、改めて気づいたこと）

■よい話

- ・水路
- ・水路が川を越えた
- ・河畔に栗の木
- ・拾ヶ堰にアカシア並木
- ・真弓の木の発見
- ・共同井戸があったこと
- ・共同のこし井戸（木炭のメンテ）
- ・こし井戸とその名残、小堰の流れ
- ・衛生意識が高かった
- ・水車があったこと
- ・水車小屋があったこと
- ・水車で脱穀
- ・湧水までの距離が比較的短い
- ・洪水が多かった
- ・地形起伏が変わらず残っている
- ・扇状地にも小さなうねりがある
- ・除沢が一番低いところを流れている
- ・昔の町割り利用の跡が残っている
- ・集落が一番高いところにある
- ・蚕を飼った建物が残っている
- ・茅葺き屋根の家が残っている
- ・置き屋根の立派な家がある
- ・この辺の民家の特徴がわかる家が残っている
- ・養蚕を行っていた家の様子がわかる
- ・拾ヶ堰の水の利用、重要度

■心配・気がかりな話

- ・屋敷林の消失
- ・屋敷林が減少してきている
- ・屋敷林の維持、管理が大変
- ・団地の周囲の緑化
- ・水田の荒廃
- ・農業と食の変化
- ・自分の田んぼの米を食べない家が増えていく（営農の大規模化によって）
- ・民家の保存、古民家の利用
- ・土地の開発が今後はいると土地の形状が失われてしまう
- ・昔の土地利用を知っている人が少なくなっている
- ・ビオトープの衰退（U字溝）
- ・ホタル生息地が消失してきている、残りわずか
- ・地域をつくった先人の役割と歴史が失われつつある
- ・環境保全、人が伝える文化に目を向ける必要あり
- ・先人が苦勞したから現在があることが忘れられている

2. 歩いて見つけた安曇野の宝物

- ・ 堰と屋敷林の景観
- ・ 北アルプスと堰の景観
- ・ 群として安曇野の屋敷林の特徴が残る
- ・ 道祖神の行事、記念碑
- ・ 宝は子どもたち！
- ・ 子どもたちが誇れる場→文化財、景観！
- ・ 一番新しい村でたくさん宝がある

3. 50年後・100年後に起こっていきそうな変化

■様々な懸念

- ・ 地区内300軒のうち100軒は移り住んできた人たち
- ・ 文化の違い、溝がある。これがますます大きくなる可能性
- ・ 祭りが絶える、行事が絶える
- ・ 祭りの跡継ぎ、20歳台の若者が不在
- ・ 古い建物が年々少なくなる
- ・ 建物の寿命が一代→何が残る？
- ・ 人口減少→空き家が増加
- ・ 耕地の荒廃がさらに進む
- ・ 水路の維持管理が困難になる

■よい風景が価値を生んでいる

- ・ 風景を求めて移り住んでいる人も多い
- ・ 外部からの見栄えのよい開発プランの横行
- ・ 景色が変わる
- ・ 拾ヶ堰の風景を守れるか！

4. 50年後・100年後に「宝物」を残していくために（１）

行政

みんなで協力

市民

■誇れる田舎を伝えていく！

- ・安曇野の宝（子ども達）に残す安曇野の宝（文化財）を具体的に、人財を育成、田舎を大切にイメージする

■いい風景、いい場所づくり、心地よい共同の場づくり

- ・長い時が必要と思いますがたくさんの水路にホタルの復活を！お金（予算）のことは？
- ・ホタルの再生を通して中堀の文化のよさを知れる
- ・細い水路（古い水路）を活かしたい
- ・老いも若きも居心地のよい散歩コース
- ・中堀散歩コース
- ・あちこちよいところにベンチを置こう
- ・経済活動にも資する活かし方
- ・中堀に桜を植えよう
- ・新田入植からの歴史のわかる場所を
- ・風景を守りながらの路地整備
- ・屋敷林の保全活用
- ・歴史的建造物の保全活用
- ・昔の暮らしの体験（3世代）
- ・古い屋敷が集落の人々のたまり場に

■物語を伝える仕掛け、興味を持てる伝え方

- ・拾ヶ堰の紙芝居
- ・公民館、PTAのつながりで先人文化を伝える語り部

■祭りや行事の意義・意味の理解

- ・伝統文化の継承
- ・文化財の保全（建物）と人材育成
- ・今後お祭りの継承を！！いかに理解してもらうか
- ・中堀の古くからいる人々と新しい人々との結びつきは行事や交流
- ・古い行事の再来！
- ・お盆の日に広い区民参加で
- ・自分たちの舟、精霊流しはひとつのきっかけ！

■3世代交流、若いリーダー育成

- ・いいところ取りで終わらない住まわせ方、なじみ方
- ・子どもたちの体験学習
- ・若いリーダーの育成
- ・いい景色を求めて住む人たちが、その土地の成り立ちや文化、先人の苦労を理解できる機会をつくる

4. 50年後・100年後に「宝物」を残していくために（2）

行政

みんなで協力

市民

■人を呼び込む手段

- ・宝物（具体的な事物）についての案内板・説明板の設置、QRコードの利用、道祖神、堰、こし井戸など
- ・道祖神巡りとその案内板
- ・中堀マップの作成
- ・拾ヶ堰沿いの見どころマップの作成

■次世代への宝物の継承

- ・子どもが目を輝かせる場を作る→シリーズにして子どもを巻き込む機会をつくる
- ・学校（小・中・高）での地域探究ワークの実践を増やす
- ・小さい時代の体験が次の力になる
- ・育成会と公民館の連携→子どもが集まる企画
- ・地域の行事を子どもへ（手伝いは区民）
- ・子どもの行事参加
- ・長期休みに体験
- ・時代の体験の場（生活）
- ・それぞれの時代を体験できる施設
- ・お祭り（行事）を世代間交流の場として活用
- ・神社のお祭りの継承（神事と舞台等の曳行）

■宝物の記録

- ・古写真→現在の様子をいっぱい集め、その変化を大人が話し、子どもに知ってもらう
- ・古写真の収集（変遷の歴史を資料として残す
- ・今のうちに記録できるものを残す
- ・年配の方々からの聞き取り、生活体験など

■農地の保全

- ・遊休農地の対策（農地の持ち主と耕作してくれる人をつなぐ政策）
- ・水田の保全、荒廃地の利用

■屋敷林の保全

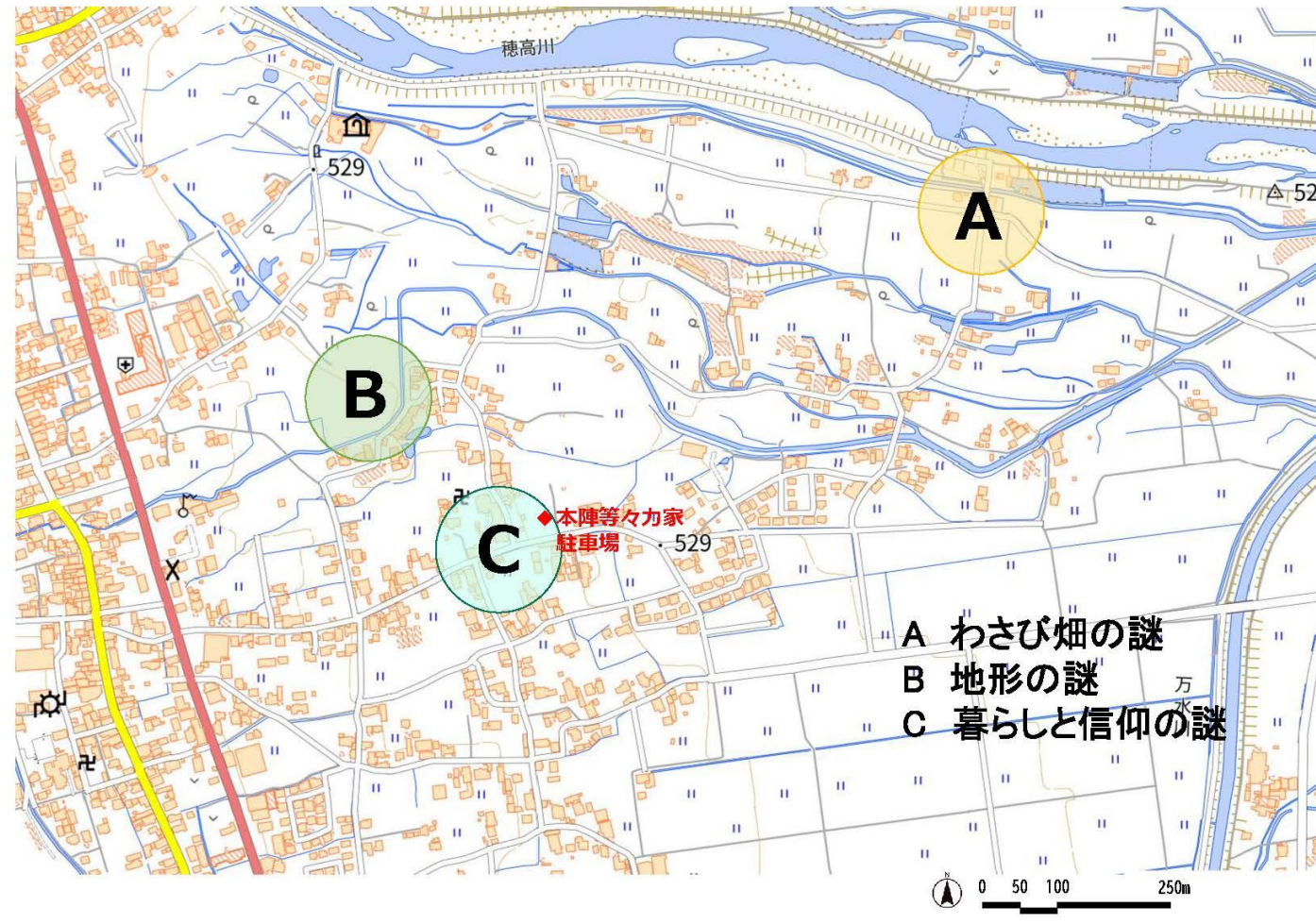
- ・団地そのものを屋敷林で囲う
- ・自然の現象に合った屋敷づくり
- ・屋敷林の保全と方法、生垣（2～3m）

Ⅲ. 第2回 湧水を活かした生業が育む景観（等々力地区）

Ⅲ-1 謎解きウォーク

（1）配布資料

【エリアマップ】



移動順路

A班：C→A→B

B班：A→B→C

- A わさび畑の謎
- B 地形の謎
- C 暮らしと信仰の謎

わさび畑の謎を解け！

推理・予想

A

新たな気づき・発見



Q1左 周辺にある緑の小山は何？



Q2中 擁壁に囲まれた場でわさびが育つのはなぜ？



Q3右 水路が交差しているのはなぜ？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと

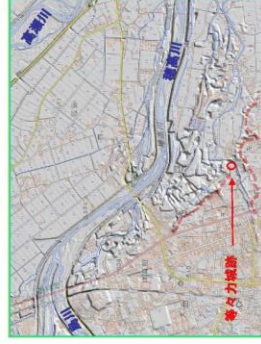


地形の謎を解け！

推理・予想

B

新たな気づき・発見



Q1左 高低差はどのように生まれたか？



Q2中 城の北側の崖はどのようにしてつくられたか？



Q3右 この「城」の役割とここにある理由は？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



暮らしと信仰の謎を解け！

推理・予想

新たな気づき・発見

C



Q1左 樹木がある方角とその理由は？



Q2中 二十三夜塔の意味は？



Q3右 大きな下駄は何のため？





見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



(参考) 当日の様子



Ⅲ-2 ワークショップ結果

1. 本日の「安曇野」を振り返る

■よい話

- ・わさび田 この地域ならではの財産
- ・わさび田の敷石の違い
- ・わさび畑(大王とちがった個人経営的な雰囲気)
- ・水路 わさび畑 排水路 ます池 欠川
- ・わさび (ニジ)マス池 水路が結びついた風景
- ・湧き水がわさびや信州サーモンを育てる力になっていること
- ・あゆ 信州サーモン(産業)
- ・養鱒場(こんなに魚がいることに驚きました)
- ・水がきれい ・伏流水 湧水
- ・水路の大切さ ・移住者が来る
- ・菓子店、コンサートホール等、新しい物もある

■心配・気がかりな話

- ・本陣等々力家 すばらしかった (残していきたい場所)
- ・等々力家の庭や建物が荒れてしまっている点が残念
- ・本陣等々力家が朽ち果ててしまうのが気がかり
- ・等々力家城跡の管理(草等)が心配 ・等々力家の今後の活用
- ・等々力家の再生 資金の問題
- ・屋敷林の保全 ・樹木の手入れの大変さ
- ・文化財を残せるか ・古民家の保存、継承
- ・文化財の保護・管理(文化)
- ・価値がわからない人が多い
- ・継続 ・風化 ・保存

- ・道祖神(文化)
- ・城もある(文化)(歴史) ・城があった
- ・見張りのための等々力城があった
- ・等々力家の門・庭・倉
- ・本陣等々力家 由緒ある建物のたたずまい
- ・歴史とつながる風景
- ・産業と地形 ・生活と文化
- ・自然の景観(自然)
- ・安曇野の地形の不思議を初めて知った
- ・自然の地形等を上手に利用している生活
- ・アルプスの山々 田園風景を見ながらの散策

- ・わさび田の放棄地の増加
- ・荒廃したわさび田 担い手の不足 生産放棄
- ・水田、畑、ワサビ畑の荒廃
- ・わさび田排水路の水がうまく流れなくなっている場所がある
- ・外来種 オオカワジシャ クレソン
セイタカアワダチソウ etc
- ・地下水位の低下 ・湧水の保全
- ・安曇野で食べられる店は夜早い
- ・変わってしまう風景

2. 歩いて見つけた安曇野の宝物

- ・等々力家城跡 普段気付かないスポット
- ・砦跡(等々力家)-歴史
- ・道祖神 信仰が形に残っている点
- ・わさびの山とわさび田と排水路 独自の景観
- ・西山、東山の山岳、山地景観
- ・たつみ(直売所) 信州サーモン ソフトとば
- ・養鱒場 わき水を利用している点
- ・田んぼ
- ・安曇野のコメ

3. 50年後・100年後に起こっていそうな変化

- ・温暖化
- ・湧水の変化・枯渇 ・地下水くみ上げ
- ・減反政策
- ・地元型店舗の高齢化
- ・三九郎も小さくなってきている
- ・安曇野のそれぞれの地域別歴史を反映してきた建築物 どうする どうなる
- ・土蔵や屋敷林の消滅・荒廃
- ・屋敷林の維持 管理が困難
- ・後継者不足 わさび畑や鱒池の維持
- ・山林の荒廃→土砂災害や洪水の危険性増える
- ・洪水の発生 氾濫原の抱える問題
- ・つぎはぎの街 ・エリアの差

4. 50年後・100年後に「宝物」を残していくために（１）

・徐々に変える、効果的に変える

・興味0→1にする

行政

みんなで協力

市民

■食・おいしいは宣伝できる

- ・地産地消にメリットを！
- ・食のニーズにあわせた生産
- ・地場産を買えば値引き
- ・直接購入 精米ポイント 鮮度
- ・子どものときに地元の水 めかくど
- ・なぜできている？ 環境条件など
- ・先人の努力を知る
- ・背景を知って買う！
- ・身近な食べ物から考えるプロセス

■知る・体験できる工夫

- ・きれいな湧き水を触れる場所がない
- ・歩く人用のマップの看板を増やすべき
- ・休憩のためのベンチ、日陰がない
- ・自転車道の整備の必要性

■子どもや移住者への継承

- ・帰ってきやすい、戻ってきやすい場所

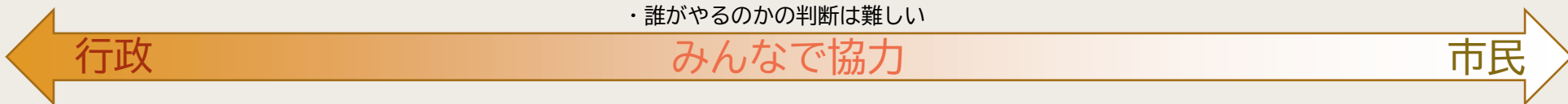
- ・移住者と地元民一緒に
- ・子どもたち、移住者向け
- ・よそ者の目、価値観

- ・小学生時代の体感！
- ・親子体験→教育関与
- ・部活の地域移行
- ・単発イベント→持続性

■水の活用方法

- ・冬水たんぼ 麦あとたんぼ
- ・クレソン育成 排水利用

4. 50年後・100年後に「宝物」を残していくために（2）



■地域を知る・体験する

- ・地域で案内板をつくる
- ・地域をまとめた冊子づくり

- ・区史を育成会で学ぶ、教える継承
- ・存在の歴史 意義・意味を学ぶ

- ・地域でわさび畑に入る 養魚場に入る体験
- ・地域の人が案内するイベント
- ・地域の産業を知る
- ・地域を知る機会を増やす 小・中・高 探究ふるさとさんぽ
- ・愛着を感じるために、知る機会を増やす
- ・子どもの行事参加で地域を知る
- ・地域の環境で遊ぶ体験
- ・経済活動にも資する活かし方

■周知方法

- ・文化財＝宝物マークを広める
- ・宝物＝現場に表示を！
- ・「わさび畑」という単語を大切に

■維持・継承の方法

- ・古民家の残し方と工夫について
- ・地形を無理なく利用している工夫、素晴らしさ

- ・屋敷林の形を見直す

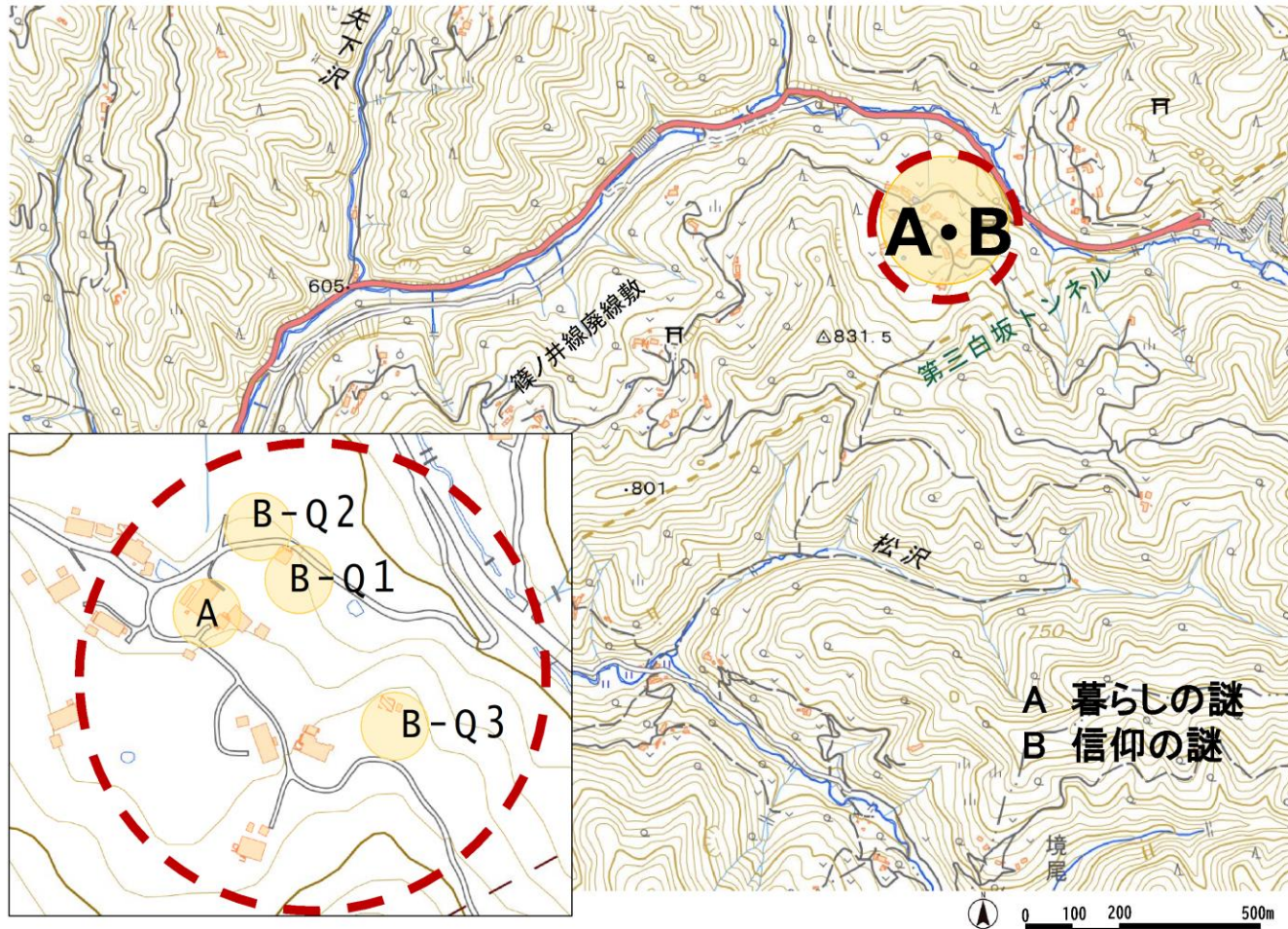
- ・風土に合った建物・物語の必要性
- ・外から見えない工夫をする
- ・住民の生き様による景観

IV. 第3回 安曇野の「東の玄関口」の山村景観（潮沢地区）

IV-1 謎解きウォーク

（1）配布資料

【エリアマップ】



移動順路

A班：B→A

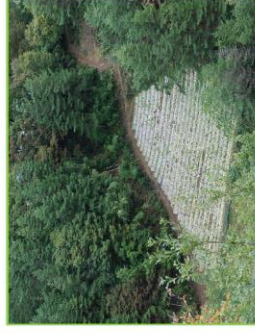
B班：A→B

暮らしの謎を解け！

A

推理・予想

新たな気づき・発見



Q1左 金属板の屋根材の下にある材料は？



Q2中 これは何？



Q3右 一部の暮らしを支えていた畑の一つ。何畑？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと

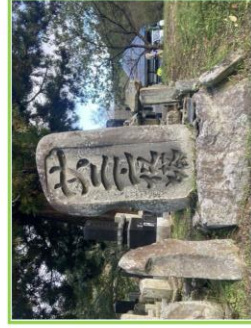


信仰の謎を解け！

B

推理・予想

新たな気づき・発見



Q1左 お堂の役割は？



Q2中 石碑の文字の読み方と意味は？



Q3右 鳥居の奥にある建物の役割は？



見つけた
地域の宝物

宝物に関して
気がかりなこと



(参考) 謎解きウォークの様子



IV-2 ワークショップ結果

1. 本日の「安曇野」を振り返る

■よい話

- ・ 里山の美しさ
- ・ 景色が美しい、平地(ゆるやかなカーブ、歩きやすい道)お堂など優れた作品、芸術品
- ・ 地形が生んだ生活
- ・ 地域ならではの文化
- ・ 森の魅力的生活の創造
- ・ あずみのらしい住宅を初めてゆっくり見た
- ・ 屋根の材料にはかやだけでなく麦わらなども使われている！
- ・ 井戸水 初めて見たかも！
- ・ 経済的に豊かな時の遺物が残っていて山の中であつたのでおどろいた
- ・ 限界集落と言いながら人通りの多い道(筑北村への道)から近い。すぐ行ける。山奥でない。
- ・ 住んでないのに整備されているのがびっくり
- ・ 草やお墓が手入れされていたこと
- ・ 残そうとする方がいること
- ・ 歴史話があること 平家、伝説 etc.
- ・ 神社の名前がかかっている額に日の丸の扇の紋があって、平家ゆかりである？
- ・ 立派な厨子があんなにひっそりとあるなんて
- ・ 名九鬼の地藏堂の中の彫り物や仏像のすばらしさ
- ・ 神楽殿がきれいな形で残っていたこと
- ・ かなり古い神社(神)が残っていること

1. 本日の「安曇野」を振り返る

■心配・気がかりな話

- ・ どうか残すかが心配だ
- ・ このままではなくなってしまうのでは。
- ・ 早く手入れをしないとこわれそうなものが多い。
- ・ 集落がなくなる。
- ・ 今は通って管理している方がまだいたが、今後が心配。
- ・ 世代交代
- ・ 人口減少さらに…
- ・ ハヤトウリや柿 管理している人がいる
- ・ 管理者が高齢
- ・ 車でしか行けない場所に高齢者はムリ
- ・ 人口が減っていることも課題だが、急斜面という地形、市街地から遠いので人が集まりにくいと思う。
- ・ 行くために車が必須であること
- ・ 住んでいる人がいない土地を守る事の難しさ
- ・ 誰にも知られずに消えてしまいそう
- ・ 住宅の廃墟 どうなる どうする
- ・ 建造物のほとんどが朽ちていっていること
- ・ 朽ちてしまった家、人が住まなくなってしまった家がいくつかあった。
- ・ 建造物、歴史的建造物の崩壊
- ・ 神社本殿や民家が倒壊する危険があること。
- ・ 有利な生活様式 タバコ、養蚕、が失われていること。復活不能産業？
- ・ 風化(歴史、文化、建築)
- ・ 下水の設備はないのか？
- ・ 藤代社の神楽殿 何とか残して復活させられないか
- ・ 神をあの状態に残しておいてよいのか
- ・ 泥棒に入られたと聞いて大変

2. 歩いて見つけた安曇野の宝物

- ・自分の近所でも空家になりそうなところが多々ある。
- ・これからも神社の祭りを大切にしたい。
- ・生きるよすがの発見が必要
- ・自然 地元愛
- ・安曇野の秋を楽しむイベントが必要(冬も)
- ・自然 いい意味での何もない空気
- ・山、空の美しさ
- ・廃線敷がきれいだ！
- ・知らない歴史があった
- ・暮らす人が手を合わせてきた 石像物や仏像
- ・落人伝説のある事
- ・お堂の立派な彫刻
- ・地下水、湧き水

3. 50年後・100年後に起こっていそうな変化

- ・技術の進歩やAIなど
- ・人口減少、経済不安
- ・維持する人がいなくなる。ボランティア活動する人さえいなくなる。
- ・大きな自然はそのままだが… 荒地が増えるか管理できない土地
- ・土砂災害防止法 警戒区域
- ・寺社や空き家の老朽化
- ・×新築 ○改修
- ・働き方の変化
- ・安曇野でも働く会社などが増え(人口増)で緑増えるか
- ・古いものへの若者の関心
- ・住民の変化(国際化)
- ・外国人がふえる
- ・外国人が所有して活用しているかも
- ・多様化からの変化
- ・価値観の多様化
- ・価値観の変化 何を良しとするかは50年・100年一定でないのでは
- ・ムラ社会の意識
- ・「大切にしているもの」の存在がなくなる
- ・信仰か文化財か、残す意味、価値

4. 50年後・100年後に「宝物」を残していくために（1）

行政

みんなで協力

市民

■残し方のイメージ

- ・生活の場として復興するのか？観光の場と考えるのか
- ・豊かな生活があった 生活・宝+付加価値
- ・昔をイメージできないといけない

■残すために必要なこと

- ・個人の限界→行政のバックアップの仕掛け

- ・森の中のくらしの小さいコミュニティ
- ・集落をつくる複数の単位は個人ではなく一定の集まりであるべき
- ・空き家の活用
- ・残すべきものを調べる
- ・名九鬼地区の優位な条件

■地元関係者意識

- ・現在の敷地管理
＝お墓参りで休めるところ
- ・継承の条件
＝墓じまいしない
「個人」よりも「集団」でないと、受け継がない

■移住希望者と地元の関係

- ・移住希望者の悩みの解決
- ・家、仕事の受け入れのお皿が少ない問題
- ・空き家所有者の考え（安曇野市内）
- ・色々あると困る、まわりに迷惑かけられない
- ・外から来る人いいところ取り⇄地元の感覚

■残し方・活かし方のアイデア

- ・自然を求める人たちが住む二地域拠点
- ・別荘地として運営（ライフラインを整える）
- ・山村景色や古民家のよさを残しつつ、人が集まるような空間（イベント、広場、研修施設）
- ・アーティストinレジデンスの取り組み
- ・芸術家や音楽などをテーマにして民家を修復したら
- ・芸術祭、イベント（フェス）の開催、インターンの募集
- ・例）大町の北アルプス国際芸術祭
- ・神楽殿は核の一つになるかも
- ・農業インターン、改修自体がイベント
- ・農作業、野良仕事→アクティビティ
- ・ゴミ拾いがゲームになる時代

4. 50年後・100年後に「宝物」を残していくために（2）

行政

みんなで協力

市民

■活性化の方法

- ・住民を増やす→税収
- ・市の内外で関わる人を増やして、定期的に誰かが手入れしたりするようにする！
- ・安曇野の観光が大王しかないのがもったいない
- ・自然を利用した泊まりが必要な観光（住む）
- ・飯山のモデルを参考にしてみても？

■土地利用について

- ・土地売買の規制！！
- ・土地売買の規定しっかり
- ・法の整備、近隣住民の理解

■外部から人が入ってくるについて

- ・地域をどうしたいか
- ・価値観の共有
- ・地域の歴史に対するリスペクト
- ・ムラの歴史を伝える手立て
- ・移住者が地域にとけ込む努力
- ・外の人が入ってくることの良し悪し

■次世代への継承

- ・価値を把握する←教育現場
- ・教育現場は異動あり
- 指導・体験・計画を含め行政が入る

■活用に向けた方策

- ・古民家の活用（貸し出し）
- ・竹を売ってほしい

V. 3回のワークショップのまとめ

(1) 各回での特徴的な意見・提案等

拾ヶ堰と緑豊かな農村景観 (堀金・中堀地区周辺)

- 土地の成り立ちや地域を知らずに住まいを求める人が増えてきており、古くからの**住民との繋がり**が薄い地区も多くある。暮らす環境についての理解がないと地域の宝物を受け継いでいくことも難しい。
- そのためにも、新旧住民の接点、新住民が暮らす地域への**興味や関心をもつきっかけや体験**（一例として精霊流し）は重要。
- 子どもへの継承を教育、地域学習等で、**長期休みを使い昭和・大正時代の生活を体験**するなど。年配の方々からの聞き取りなどで今のうちに**記録を残しておく**。
- 次世代に受け継ぐ流れのある「持続性」の確保に目を向けた取り組みが重要。**お祭り等の行事を世代間交流の場**として活用。
- 屋敷林は自然の現象から屋敷を守るもので、現在の住宅では樹高2～3mあればよい。

湧水を活かした生業が育む景観 (穂高・等々力地区周辺)

- 温暖化や地下水位低下などの**環境変化**がわさび栽培にも影響している。
- 栽培・育成の基盤を維持する様々な手立て（麦あとと田んぼ等地下水保全や涵養）のほか別の作物で環境を維持する（例：クレソン栽培）等の**持続可能性**を探る措置も求められる時代へ。
- 「食」はより多くの人意識できるテーマ。歴史文化の学びに「食」を関連付けることで、**ありがたみや先人の知恵・技術などがわがこと（自分事）**として受け入れやすくなる。
- 過去の安曇野の暮らしのスタイルや文化は「**地産地消**」。その観点に立って、歴史的な資源や地域の宝物をとらえることが重要。
- 「わさび田」ではなく「わさび畑」など、**地元ならではの呼び方**が重要。わさび田は平成以降の呼び方。
- 地域の子どもがわさび畑や養魚場に入る体験**を地元の人の案内で行うなど。区史を冊子などで学び、教え、産業が存在する意義・意味を継承する。

安曇野の「東の玄関口」の山村景観 (明科・潮沢 名九鬼集落)

- 現在は家に常時住む人がおらず、**墓参り**に合わせて受け継いだ敷地や**資産を管理**している状況。
- 家の資産を**管理する者同士も交流がない**ため、繋がりもつけない。地域の今後についての**コンセンサスを形成できない状況**。
- 限界集落の空き古民家を活かすことを考えるのなら、**個々の対応は難しい**。**一定のまとまりのある活動**でないと困難。
- ⇨変わってしまうよりは、**そのまま朽ち果ててしまったほうがよい**という考え方もある。
- 問題のある人が入ってくる可能性も。移住者の地域の歴史に対するリスペクトは大切であるが、既に**歴史を伝える**すべはほとんどない。
- ほとんど**信仰がない仏様**等を「文化財」として（博物館などに閉じ込めて）**保護対象にすることに価値はあるのか**。残す意味を考えていくべき。

(2) 共通課題 (地域・地区の枠を超えた全市的課題) 赤文字:議論の中で出されたキーワード

⑤直面する社会の変化や課題への対応

- ・地球温暖化や水環境の変化
→環境の負の変化を緩やかにする取り組みとの連携(例:わさびの生産環境)
- ・少子化→子どもが戻ってきやすい環境づくり。移住定住促進。雇用や観光の強化。
- ・核家族→我が家で手一杯の親。地域活動にも関われない実態

誇れる田舎の継承

地域の中で支え合うための理解を促す「体験」の重要性

様々な分野の相互連携

①地域住民相互の関係の希薄化への対応

- ・誰もがつながれるといわれるネット社会が広がる中で、身近なところでは繋がりが弱まるという状況
→希薄化の流れを緩やかに抑える措置
繋がりを生み出す「きっかけ」
→空家古民家の活用ひとつとっても受け入れる側の事情や実態が場所ごとに多様。活用できる条件すら失われてしまっている地区もあり。
例) 古民家の所有者の考えも不明
朽ちても仕方ない

②「文化財」として残す普遍的な価値は?

- ・古くから残るものに対する価値観や評価の多様化
→安曇野市内の文化財として残したい普遍的な価値を探る

④『わが事』に置き換わる機会や体験を地域のなかで創り出し、次世代へ

- ・子どものうちに地域に根差した生活・産業を体験する取組。
- ・学校教育に限らず地域の人が生きた知識を教えるなど。
- ・「自分事」で実感できる体験やテーマの重要性
例) 日頃の食や地産地消
- ・地域の冊子づくりなどで昔の生活を記録。
- ・「信仰」「祭り」等を通して地域を学ぶ・地域がとつながる方法(学校では難しいが地域で学べる)

③『今暮らしている場の成り立ち』の視点からの身近な地域(環境)の再認識

- ・移住者が6割、既に地形的な生活基盤はできている条件。その環境の成り立ちを歴史的な時間軸だけでなく、地形や暮らしの空間づくり、水や食料の確保という視点からとらえると、初めて知ることが多々あり。
- ・地形や環境を無理なく活かす先人たちの知恵や工夫の(再)発見と伝(継)承という視点

興味0を1にする取り組み

地域を語れる人から昔を聞き出せる最後のチャンス

⑥市民も来訪者も心地よく

- ・等々力と中堀では案内板が不足との指摘もあり。地域で残したい資源が住民の共有・共同の場にもなるような使い方・活かし方の模索が必要。
観光なども見据え、ハード面でも地域について理解を深める工夫を。
- ・外からの受け入れ、外部の価値観の導入も方法だが困った人が入ってくるのも不安。